

# 第19回 Jichi Joy Café 開催結果報告



2024年度テーマ

## 働き方改革が始まってからの職場づくり

2024年11月1日（金）に「第19回 Jichi Joy Café」を今回もZoomにて開催しました。

「『働きことと育児の両立』をみんなで考える～お子さんが病気の時、さてどうする？～」をテーマに今年度2回目の開催です。

## 開催内容

佐藤篤子先生の司会のもと、石川由紀子センター長の開会のことばに続き、門田先生の「遠隔診療を用いた診療に関する研究のご説明」と質疑応答、園田先生の「WEB予約システムのご説明」と質疑応答、また参加者によるコメント、フリーディスカッションを行い、小形幸代副センター長の閉会のことばにて終了となりました。

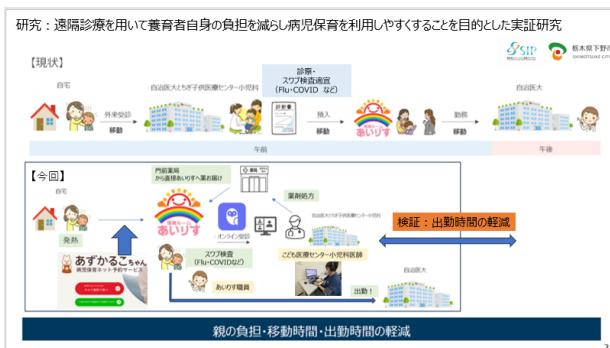
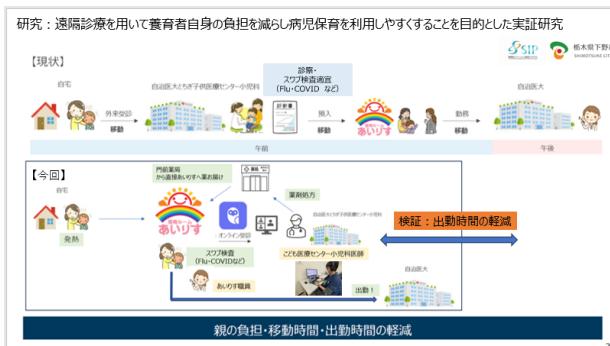
今回は25名の方にご参加いただきました。子育て世代のみならず、多くの方に興味を持って頂けたのではないかと思います。

### ◇参加者データ

性別	人数
女性	18
男性	7
合計	25

これからも Jichi Joy Café では、働き方の多様性について幅広く情報を提供していきたいと考えております。

## 1. 遠隔診療を用いた診察に関する研究参加のご説明 小児科・門田行史先生



## 2. Web 予約システムのご説明

株式会社グッドバトン代表取締役/東京大学医学部産婦人科学教室小児科・園田正樹先生



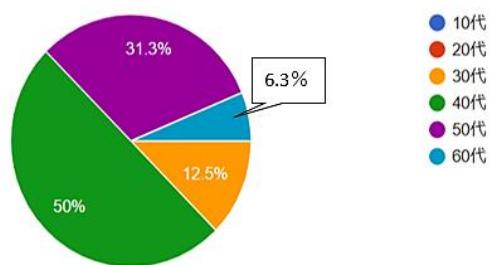
◆回答者データ

性別	人数
女性	12
男性	4
合計	16

職種	人数
医師	7
教員	7
看護職	1
事務職	1
医療技術職	0
大学院生	0
合計	16

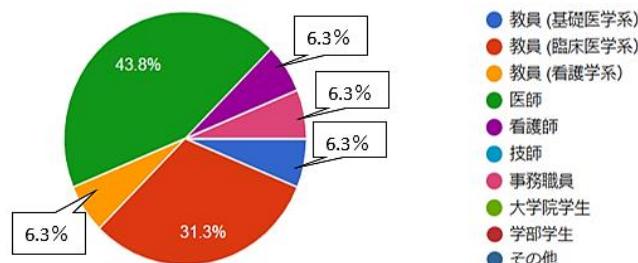
Q1：ご自身の年代を選択してください。

16 件の回答



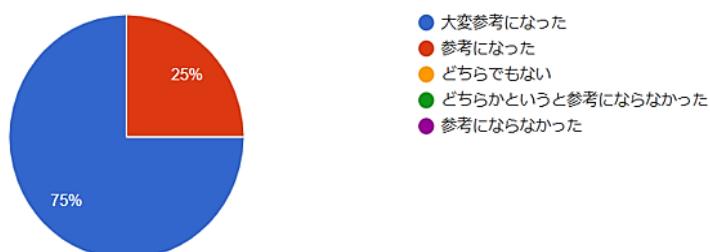
Q2：職種を教えてください。

16 件の回答



Q3：イベントの内容について当てはまるものをお知らせください。

16 件の回答



◆「遠隔診療を用いた診察に関する研究参加のご説明」で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・どこまで実装するかが不安
- ・あいりすの看護師とのやりとりで遠隔診療の妥当性を検証できること
- ・まだ電話での予約が主流だということ、電話がつながらず悶絶寸前の綱渡りが勃発という現状に、とても驚いた。(20年前に自分が子育てしていた頃と、たいして変わっていません。手書き書類が必要なら対面申込とほぼ同じですもんね)
- ・病児保育受け入れの円滑化につながると思い期待しています
- ・非常にニーズの高い研究と思いました
- ・皆様に关心を寄せていただいてとても嬉しく思いました。
- ・これから病児保育を利用させていただこうと考えていたので、予約や利用がスムーズになる方法としてぜひ研究に参加したいと思いました。
- ・モバイルツールを使った診療が想定されていて、今後迅速な遠隔診療が可能になると、診察に時間を取られることで休む人、という勤務者が減ると思うので、人材確保につながると思いました。
- ・現在在籍の大学でも同様のデバイスを用いて、遠隔診療を開始します。参考にさせて頂きます。
- ・安全性担保の問題について
- ・1ストップで利用できる構想がやはり素晴らしいと思いました。今回は病児保育のケースですが、ゆくゆくは小児科の通常診療や他の成人科の診療においても広がりのある試みであるように思いました。
- ・遠隔診療は、病児保育利用者は医療機関や薬局に行く時間を短縮することができ確かに、有用だと思います。この研究実施のあと実現されることを望みます。
- ・遠隔診療に使用する機器やシステムが普及すれば、在宅勤務もより増えるでしょうし、働き方改革に直接寄与できるだろうと思いました。
- ・病児保育利用のための病院受診については遠隔診療が進んでくれるとありがたいと思いました。
- ・済みません。遅れての参加だったため、間に合いませんでした。
- ・遠隔診療で受診の手間や時間短縮などが可能になればとてもよいと思いました。

◆「Web予約システムのご説明」で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・いいシステムなので広がるといい
- ・電話通話でのアナログ予約の面倒が解消されること
- ・どんどん進めたら良いと思います。他のことではスマホ利用とかどんどん進むのに医療の世界はクレカ使用もネット決済も導入遅めなのはなぜでしょうか?
- ・早くウェブ予約ができるといいなと思いました
- ・電話予約の不便性に対する認識を改めました
- ・具体的な内容であり勉強になりました。下野市にぜひ導入していただきたいです。
- ・このようなシステムが早く導入されれば嬉しいですが、市町村ごとの扱いだと利用しにくい可能性があるため、県や地方など大きな括りで導入してほしいと思います。

- ・満杯で預けられないという懸念が減ることは安心につながると思いました。預けられるか、預けられないかの診断書をいかに早くもらえるかが重要だとわかりました。
- ・途中退席しており、残念ながら全て聞くことができませんでした。
- ・病児保育においてもWeb予約ができると便利であること
- ・先生やグッドバトン様のすばらしい事業に大変感動しました。行政を含め、多くの方が心を動かされていると思います。今後、ますます医療者が少なくなっていく中で、るべき効果的・効率的な未来の姿をみたように思いました。
- ・アプリを導入して利用しやすくなることで、よりニーズも高まるという点が、実証されていることは大変興味深いです。病児保育が使いやすいということは大きくキャリア継続に貢献するということに多いに共感いたします。
- ・子育てのニーズをしっかりと把握されて、本当に必要なシステムを提供されていることがよくわかりました。素晴らしい取り組みだということが、視聴者のご意見でよくわかりました。
- ・あいりすの空き状況が確認できて、予約も24時間できるようになると、気持ちの上でも楽になると思います。
- ・園田先生のお話の後半のみしか聞けませんでした。とても残念です。病児保育の予約システムだけでも画期的なのに、オンライン診療も連携したシステムを作るなんて、もうそんな時代なのだと、びっくりしました。あづかるこちゃんの取り組みを、もっと多くの人が知ることができたら、とりわけ、これから医師として、子育てをしながら働くことになる学生さんたちには、ぜひ知っておいてもらいたいことだと思いました。
- ・WEBで空きを確認したり、予約出来るようになるのはとてもありがとうございます。ただ利用しやすくなる分、空きがない状況が続かないか…というのは心配です。

◆「フリーディスカッション」で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・未参加
- ・退出していました
- ・周知が大切なこと
- ・病児預かりのニーズの高さ
- ・参加できませんでした
- ・仕事の都合で退席させていただきました。
- ・自治医大小児科でファストパスを利用させてもらえることを初めて知りました。また、現状で病児保育を利用するのに様々なハードルがあることも知ることができました。
- ・病児に対しての、診察と診断書交付、預け先の確保がスムーズになるとあらゆる意味ですべての勤務者の負担が減ることになるとおもいました。
- ・子育て世代の職員に取って、子どもの急性疾患にかかる事柄は一大事であり、皆が困っていることを実感しました。小児科医として、何かできないか、日々考えています。
- ・将来の病児保育への展望について
- ・感染症科の先生のお立場と園田先生とのお話が興味深かったです。COVID-19のときは、何をしていたらよいか、という行動規範の議論がということを皆で話し合っていけると良いですね。
- ・病児保育を使ってもいつもの時間に出勤することは難しいことはチームは理解しています。病気の子を預けて働くことは、多くの手続きがあって大変だと思いますが、同僚としては、病児保育に預かってもらえるくらいお子さんが回復されている状況なら、欠勤より遅刻しても来て下さる

ことは大変ありがとうございます。そのためにも少しでも利用にかかる手続きの負担が軽くなるとよいと思います。

- ・子育て世代の方々の生のご意見が聞けて大変参考になりました。遠隔診療もあづかるこちゃんもニーズをきちんと把握されて、その対応を考案されているということもよく理解できました。このような取り組みが普及していくことがダイレクトな子育て支援になるのだろうと思いました。
- ・遠隔診療とWeb予約がセットで進んでいくと、より便利になるのではないかと思いました。
- ・まさに今、病児保育をどう確保するかで苦労されている先生方のお話は、あづかるこちゃんの取り組みが、本当に喫緊の課題なのだと感じさせてくれました。とはいって、20年前、自分の時は、病後児保育を利用するだけでも大変だった(こんなに大変なら、仕事を休む方がまだ楽、というのはその通りでした)ので、ずいぶん変わったのだと思いました。うっすらとした記憶なのですが、病後児として認めてもらうための手続きは、まるで病(後)児を預けることに対する罪悪感を感じさせられるような体験でした(病後児保育室も、病院に隣接したマンションの一角に、隠すようにして作られていた印象です)。そうした、母親の後ろめたさや、社会の目(?)のようなことは、今では気にならないものになっているのでしょうか?
- ・小児科受診→WEB予約の連携にはまだ少し時間がかかるとのことでしたが、病児保育を利用するにあたり受診は必須であり、そこの整備が早急に進んでいけばいいなと思いました。

◆ 「Jichi Joy Café」ご参加の感想や、今後に向けてメッセージがございましたらお書きください。

- ・もう少し多くの人にご参加いただけるように、何か工夫が必要かと思った
- ・スタッフのお子さんがお世話になっております。そのため参加しました。
- ・いつもありがとうございます。応援しています。今後ともよろしくお願いします
- ・定期的に開催してくださり、キャリア支援にとても重要な会だと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・このような活動がよりよい社会への実現に大切と感じました。参加させていただきありがとうございます
- ・参加させていただきありがとうございました。
- ・大変参考になるお話で、参加して良かったです。これから利用させてもらう当事者として、何かお役に立つことがあれば何でも協力したいです。
- ・参加人数を増やすためにどうしたらよいかが検討課題かと存じます。
- ・園田先生のお話を拡大版としてお聞きできるとのこと、楽しみにしています。
- ・子育て当事者だけでなく、診療科長や教授クラスなど、管理職にも活動を是非知って頂きたいです。
- ・質疑応答を、「Yes/No」の2択アンケートのような仕組みにした方が参加者が反応を示しやすいかもしれません。今回であれば「病児保育、という仕組みをしっていますか」「自宅で体調を調べる機械について、使ってみたいと思いますか」などはいかがでしょうか。
- ・お疲れさまでした。
- ・いつも参考になる情報をありがとうございます。
- ・学部学生には、なかなか Jichi Joy Cafe の情報が伝わりにくいようです。ご迷惑でなければ、もう来年度からになってしまいますが、1年生対象の授業等で、積極的に紹介していただかたいですが、大丈夫でしょうか?
- ・実際仕事と育児の両立で困ってる点の、子供の体調不良時の事が話せてよかったです。実際に困

っている事を話せる機会があるのはありがとうございます。

勤務時間の事などその他の点も検討出来ればいいなと思います。今後もよろしくお願ひします。